別紙３

教材の作成と講義の試行に関する研究

研究分担者　岡野　聡　愛媛大学大学院理工学研究科助教

研究要旨

　ミャンマーの大学で日本式の安全講習会を開催するため、オリジナルの英語教材の分担執筆を行うとともに、作成に関する取りまとめを行った。

A．研究目的

　最大都市ヤンゴンの近郊 Thilawa に我が国とミャンマー政府とが協力して大規模な工業用地を開発し日本企業を誘致しているが、ミャンマーでは安全衛生といった、人の生活の基本についての知識導入や啓蒙活動は不十分である。また政府は、その重要性については理解しているものの法体系の整備も遅れ、現状ではそこまで手が回っていないというのが現状である。

　本研究は、ミャンマーの工科系大学で日本式の労働安全衛生に関する講義を継続的に開講し、日本的な安全衛生習慣を持った技術者を育成することを目的としている。2020-2021 年度は、当初の予定では安全衛生講習会のテキストを完成させ、実際にモービー工科大学で講義を行う予定であった。しかし本年度は世界的な新型コロナウイルス拡大及びミャンマー国内でのクーデターの発生により、ミャンマーに訪問することはおろか、日本国内での対面での打ち合わせも困難な状況であった。研究者は、コロナ禍におけるテキスト作成の取りまとめを行った。

B．研究方法

　本プロジェクトのメンバーは、愛媛大学と岡山大学の教職員で構成されている。またテキストの完成には、モービー工科大の教員との意見交換も重要であった。国内でのテキストの打ち合わせは、ZOOMによるweb会議システムを用いた。会議は２年間で10回以上行実施した。

なお、2020年の秋は比較的コロナウイルスの感染状況も落ち着いていたため、県内での対面での打ち合わせは可能であった。そこで愛媛大学の構成員は対面で、その他のメンバーはwebによる参加を試みた。今回のように数10ページに及ぶテキストの修正を行う場合は、対面で打ち合わせることで文章の並び替えや図の配置について、意思の疎通が図りやすいと感じた。またモービー工科大学の教員との連絡は、共同研究者のRuth氏が行い、日本とミャンマーの現状や習慣の違いについても留意した。

C．研究結果

遠隔での打ち合わせにより、対面と同等の完成度のテキストが完成し、出版することができた。

E．研究発表

　該当なし

F．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
　該当なし
2. 実用新案登録
　該当なし
3. その他
　該当なし